

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立塩浜小学校

校長 近藤 まり

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

塩浜小学校コミュニティスクールでは、塩浜小学校の「学校づくりビジョン」に掲げる学校教育目標「豊かな心をもち、自ら考え、進んで行動する子を育む」の達成に向け、学校・地域・保護者の連携を密にした協働を進めることをねらいとして活動しています。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

運営協議会は、「学識経験者、自治会代表、民生児童委員代表、社会福祉協議会代表、PTA代表、教職員代表等」で構成しています。年間5回（今年度はコロナ禍により4回）の会議を開催し、保護者や地域住民の学校教育活動への参画のあり方を協議するとともに、具体的な取組内容や実施時期等について調整を図っています。

「学校づくりビジョン」には、「めざす子どもの姿・めざす学校の姿・めざす教師の姿」を掲げ、「確かな学力の定着」「豊かな人間性の育成」「健康な心と体の育成」「特別支援教育の充実」「地域とともにある学校づくりの推進」「教職員の資質・能力の向上」の6つの柱を示しています。

毎回の運営協議会では、子どもの様子を参観していただき、学校教育活動に関わる様々な分野をテーマに活発に話し合いを行いました。昨年度に引き続き今年度も、コロナ禍の影響により学校公開行事は減りましたが、1学期の「認証式・1年生を迎える会」「タブレットを活用した授業づくり」、2学期の「避難訓練」、3学期の「六年生を送る会の学年練習」を参観していただくことができました。今後も、「地域とともにある学校づくり」を進めていくため、コミュニティスクールにおいてよりよい学校のあり方を協議し推進していきたいと思えます。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

学校教育活動の参観や報告を通じて、委員の皆さまに学校の取組を理解していただくとともに、適切な助言をいただくことができました。学校づくりビジョンに示した6つの柱について、コミュニティスクールでいただいたご意見をもとに取組の報告をいたします。

〈重点目標1〉「確かな学力の定着」

確かな学力を定着させるため、ICTの活用を念頭に今年度は「タブレット元年」として重点を置いて取り組みました。委員の皆さんに授業の様子をご覧いただきましたが、「タブレットを使用している様子を見て、操作できない子はいないという印象を受けた」「1人1台のタブレットになり、キーボードを打つのが早いことも感心した。そして、自分が書いたものがスクリーンに映し出される。友達の考えを教材化して深めていく・・・小学年の時分からすごいなあと感心した」と高評価をいただきました。

また、「全国学力・学習状況調査の問題が新聞に掲載されていたので、小・中学校の問題を私も解いてみて驚いた。一つ一つの課題を読み取るのに、しっかり読むことができないと解けないような作りになっている。まずは読み取る力、思考力が問われると思った。そのためにも、今年度は読書活動推進校の取組を進め、本好きな子を育てほしい」とのご意見をいただきました。タブレットと紙媒体（教科書や本、ノート類）とのバランスを取りながら、引き続き子どもたちに確かな学力の定着を図っていきたいと思います。



〈重点目標2〉「豊かな人間性の育成」

平素の授業の中で、一人ひとりを大切に、認め合い・支え合う仲間づくりを進めています。具体的には、コミュニケーション能力を育むため異年齢集団による縦割り班活動を充実させたり、豊かな人間性・社会性の育成を目指して多様な体験活動を積極的に取り入れたりしています。

認証式・1年生を迎える会の様子を見て頂きましたが、委員の皆さんからは、「豊かな人間性を育むためには、子どもたち同士がお互いに関わり合うこのような機会が大事だと思う。新型コロナウイルス感染症のために、学校が休校にならずに子どもたち同士の交流が続けられるとよい」等のご意見をいただきました。



＜重点目標3＞「健康な心と体の育成」

平素の体育の授業における取組の他、運動会、持久走記録、縄跳び週間等の取組に力を入れました。また、「みいつけたの森」に体幹トレーニングをねらってスラックラインを設置する等、運動をするための環境整備を行いました。

委員の皆さんからは、「読書は大切だが、たくさん運動し、体力づくりに力を入れることも重要である。総じて、バランスの取れた教育が大切である」とのご意見をいただきました。

避難訓練の参観では、「東日本大震災では、教師の判断と違う行動をした子どもが助かった例がある。多勢に流れる傾向がある中で、反対意見であっても自分自身の判断ができる子を育てることが重要である」とのご意見をいただきました。普段の授業の中で、そのような思考力・判断力・表現力を育むため、引き続き取り組んでいきたいと考えています。



＜重点目標4＞「特別支援教育の充実」

授業のユニバーサルデザイン化の推進に取り組みました。授業を参観された委員の皆さんからは、「先生の話が聞けずタイミングが合わない子は学習がどんどん遅れていくものだが、支援の人（T2、支援員、介助員、学習指導員）がついているから安心である。私たちが学生の頃は、55人の生徒に1人の先生だった。指導者が多いのはよいことだ」「授業中の発言は、マスクをしている上に声が小さい子はいたが、先生方がその子の特性を見極めて適切な声かけをしていたのがよかった。教室の雰囲気是和気藹々としていて、子どもたちをうまく集中させていた」とのご意見をいただきました。これからも児童理解に努め、一人一人に寄り添った支援を心がけていきます。



＜重点目標5＞「地域とともにある学校づくりの推進」

地域の方々の力をお借りしながら、栽培・収穫体験活動や出前授業、奉仕活動等、子どもたちが実に多様な体験をさせていただきました。

委員の皆さんからは、「低学年の子が『あんなに小さかった苗から、こんなに大きな芋が出来たの?』と喜んで言っていた。小さな子どもでも、体験することで何かしらは感じているようだ」と体験活動の大切さについて触れられていました。これからも保護者・地域との連携をさらに促進していきたいと思います。

地域の教育力を生かした特色ある教育活動についての実践事例



校庭の環境整備活動



塩浜音頭伝承学習



地元企業によるキャリア教育



企業連携による出前授業



地域探検てくてく



キッズ農園での体験活動



図書ボランティアによる読み聞かせ



地元専門学校歯科衛生学科による出前授業

＜重点目標6＞「教職員の資質・能力の向上」

日常的なOJTの活用、大学教授や教育委員会指導主事を招聘しての校内研修の充実に取り組みました。

委員の皆さんからは、「避難訓練では、整然と移動し、落ち着いて行動することができていた。また、教師の話もしっかり聞くことが出来ていて感心した」「高学年が1年生を迎える会の片付けを率先して行っている姿を見てすごいと思った。先生方の指導の賜物である」などのご意見をいただきました。



これらの助言や評価を教職員に伝えることで、目指す方向性を共通理解するとともに、自信をもって教育活動に当たることができました。

以上の取組の成果として、児童・保護者の各アンケートの結果では、「学校は楽しい」「楽しく学校生活を送っている」という回答が90%以上という高い結果が得られました。

また、今年度、6名の方に図書ボランティアとして登録していただき、月1回、図書室の環境整備をしていただいたり、図書室へ行きたくなるような掲示物を貼っていただいたり、読み聞かせをしていただいたりしたこともあり、毎年度、課題として挙げられる読書活動については、「進んで読書をする」と肯定的な回答をする児童が5%（65%→70%）増加することができました。

さらに、「健康や安全（交通安全）」については、肯定的な回答が昨年度より2ポイント上がって96%になりました。これは、いつも登下校を見守っていただいている保護者や地域の皆さまのご協力のおかげです。

3 今後に向けて

学校づくりビジョンの実現に向けて、コミュニティスクールにおける委員の皆さんのご意見から学校の取組を一步ずつ前進させることができています。

縦割り班活動については、「1年生はかわいらしい。2年生は体がひと回り大きくなって成長を感じる。・・・6年生はしっかりしていて頼もしい。その姿を見て下級生は学んでいける。1年生～6年生までこうやって成長していける。全校が和気藹々と活動できているのは小規模校ならではの、大規模校ではできないだろう」とのご意見をいただいています。

小規模校の良さを生かした縦割り班活動において、互いに認め合える機会や人の役に立つ機会を数多く設定していきたいと思えます。また、地域の方々の力を借りながら多様な他者と出会う機会を大切に、学ぶことが自分の人生や社会とつながっていることを理解し、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていく力をつけていきたいと思えます。これからも、連携を密にして地域とともにある学校づくりを進めてまいります。